

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	PC		11301	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事（人生）のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事（人生）に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事（人生）を考えていく。

授業計画

1. 学長による講義
2. 適性検査の実施
3. 人との出会い① 出会いのワーク①
4. 人との出会い② 出会いのワーク②
5. 人との出会い③ コミュニケーション演習
6. 社会との出会い① 社会に出るとは？
7. 社会との出会い② 子どもを取り巻く社会情勢
8. 社会との出会い③ 業種・職種・雇用形態
9. 適性検査の結果報告
10. キャリアセンター員による講義 本校のキャリア教育
11. 学科教員による講義 将来のためにいますべきこと
12. 自分との出会い① ライフパワーグラフ
13. 自分との出会い② 現在の私は？未来の私は？
14. 自分との出会い③ キャンパスライフプラン
15. まとめとテスト(作文)

授業の方法

講義（聴く）グループワーク（話す）を中心に、ワークシートへの記入（書く）を行う。聴く・話す・書くを中心に発表（プレゼンテーション）までつなげる。

準備学修

日ごろから自分の将来について考える習慣を身につける。社会の出来事に関心をもつ。ニュースに触れる（新聞・TV・ネット）ことで自分はどう思うのか？問いかけ考える時間を毎日20分程度とする。

課題・評価方法

課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。
評価方法・平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

プリント配布

参考図書

随時紹介する

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文化へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
5. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
6. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
7. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
8. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その4)
9. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その1)
10. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その2)
11. 中島敦「悟浄歎異」と「バケモノの子」
12. 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」
13. 中島敦「李陵」と「バケモノの子」
14. 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」
15. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1)

授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では一部のみしか鑑賞しない場合もある。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

- 神々の歴史
『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
- 縄文時代・弥生時代
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
- 邪馬台国・古墳時代
森嶋外『生田川』を読む
- 邪馬台国のあった頃の中国（魏）
吉川英治『三国志』を読む。
- 飛鳥時代
池田理代子『聖徳太子』を読む
- 大化の改新
里中満智子『天上の虹』を読む
- 奈良時代
手塚治虫『火の鳥』を読む
- 平安時代
大和和紀『あさきゆめみし』を読む
清少納言『枕草子』を読む
- 年中行事 その老
(正月について)
- 年中行事 その式
(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
- 年中行事 その参
(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
- 年中行事 その四
(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
- 鎌倉時代
小泉八雲『耳なし芳一』を読む

- 戦国時代
遠藤周作『叛逆』を読む
- 江戸時代
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

授業の方法

講義中心の授業である。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会计学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2	税理士			

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とIn（国際性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

授業計画

- 簿記の基礎
- 仕訳①～商品売買
- 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
- 仕訳③～手形
- 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
- 仕訳⑤～その他の債権債務
- 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
- 仕訳⑦～租税公課と資本金
- 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
- 決算①～帳簿への記入
- 決算②～試算表の作成
- 決算③～伝票制度
- 決算④～精算表と財務諸表
- 決算⑤～帳簿の締め切り
- まとめと確認

授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をすること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

留意事項

電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
経営学入門			11385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
栗木 契	選択	2	官公庁や企業のアドバイザー、研修講師、社外取締役、等。			

授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とS（奉仕）を養うことをめざす。組織において経営にかかわる上で欠かせないコミュニケーション能力、情報活用力、社会情勢の理解、チームワーク、自然・文化への理解を養う。

授業の概要

20世紀に勃興した巨大企業は、神戸の地にも多くの足跡を残している。経営学はこの時期に、この巨大企業の誕生を受けて、アメリカをはじめとする世界の各国で発展していく。このクラスでは、マーケティング論を中心に経営学が現代の各種の企業をはじめとする事業主体において果たす役割を考える。入門のクラスとして具体的な経営に関わるビデオ教材や事例を用いた講義を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 経営と何か
3. 経営学とマーケティング
4. マーケティング・ミックス
5. 製品政策
6. 価格政策
7. チャネル政策
8. プロモーション政策
9. ゲスト・セッション(マーケティング企画の実験)
10. リーダーシップ
11. 消費者行動の分析
12. 製品ライフサイクル
13. 顧客管理
14. ブランド管理
15. まとめと振り返り

授業の方法

講義とクラスディスカッションを中心に授業を進める。

準備学修

各回の授業の事前学習については、第1回目のガイダンスで説明する。

る。それ以外の準備学習の必要はない。

課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%で成績評価を行う。平常点については、毎回の授業の終了前10分間に「振り返りシート」への記入を求め、その記入にもとづく評価を行う。「振り返りシート」への記入については、各回講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

出欠の有無は成績評価に直接は影響しない。ただし、毎回の授業時に求められる「振り返りシート」への記入を欠かすことは成績評価（平常点）に影響する。

テキスト

石井淳蔵、嶋口充輝、栗木契、余田拓郎著『ゼミナール・マーケティング入門・第2版』日本経済新聞出版、2013年

参考図書

伊丹敬之、加護野忠男著『ゼミナール経営学入門・第3版』日本経済新聞出版、2003年

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET①/ET②		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

授業の概要

言葉を公に使用するという事は、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

1. 聞く力を養う。
質問力・雑談力を高める。
2. 間違いやすい「敬語」
尊敬語と謙譲語を学ぶ
3. 「敬語の種類」
4. 「日常生活と言葉づかい」(1)
5. 「日常生活と言葉づかい」(2)
6. 「ビジネス社会における敬語」(1)
7. 「ビジネス社会における敬語」(2)
8. 「さまざまな文章」[文章の構成]
9. 「原稿用紙の用法」
10. 「評論文」の書き方。
11. 「誤用文と推敲の方法」
12. 「手紙とはがき」(1)
13. 「手紙とはがき」(2)
14. 「ビジネス文書」[修辭法と慣用語]
15. 「就職活動と書類」[さまざまな熟語]

授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

小テストやノートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2. 国語の力(読む・調べる・書く)
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方、自己紹介の仕方
6. 自己紹介
7. 文字の書き方と表記
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写①
14. 書写②
15. 日本語表現の振り返り

授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

授業計画

- 1.〈評論文〉(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
- 2.〈評論文〉(2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
- 3.〈評論文〉(3) 推敲の仕方を学ぶ。
- 4.〈評論文〉(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
- 5.〈評論文〉(5)引用の規則を学ぶ。
- 6.〈新聞投稿〉 検索能力を養う。
- 7.〈意見文〉 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
- 8.〈意見文・説得文〉 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
- 9.〈意見文・説得文〉 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
- 10.〈小説〉 語り手の位置を学ぶ。
- 11.〈小説〉 テーマにそった短編小説を書く。
- 12.〈エントリーシート〉 キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
- 13.〈エントリーシート〉 ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
- 14.〈エントリーシート〉 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
- 15.〈随筆〉を書く

授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などとおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

英米児童文学の原書を読解する英語力を養い、英米児童文学の鑑賞眼を養う。演習で学んだことをまとめて発表する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。

授業の概要

英米児童文学の代表的な作品を読解する。まず比較的読みやすい"The Wonderful Wizard of Oz"を読解後、それぞれの考えをまとめて発表する。1作目以降については、学生の要望を取り入れながら関連する他の作品を読解し、それぞれのアダプテーション作品についても考察する。

授業計画

1. イントロダクション
2. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 1 ~ Chapter 2
3. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 3 ~ Chapter 5
4. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 6 ~ Chapter 8
5. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 9 ~ Chapter 12
6. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 13 ~ Chapter 16
7. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 17 ~ Chapter 20
8. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 21 ~ Chapter 24
9. "The Wonderful Wizard of Oz" の総まとめ
10. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
11. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
12. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
13. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
14. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
15. 総まとめ

授業の方法

講義後、各自が内容について調べて、グループディスカッションの

後に発表をする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点(発表を含む) 50%、定期試験 50%

課題のフィードバックは授業中に行う。発表は、授業内で口頭、またはメモによりフィードバックする。

欠席について

規定に従う。

テキスト

L. Frank Baum. "The Wonderful Wizard of Oz" Dover Children's Evergreen Classics
ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

授業の到達目標

前期に学んだ内容を基礎に、学生の関心の高い英米の児童文学作品の原書を読み、英文の読解力を向上させる。また、選んだ作品についてのテーマを考察し、まとめて発表する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、In(国際性)を養う。

授業の概要

前期に学んだ2作品に何らかの関連性を持つ作品を選び、原書を読解し、グループでテーマを設定して、そのテーマについて調べて考察する。その後、授業内で発表とディスカッションを行う。

授業計画

1. 前期に学んだ英米児童文学に何らかの関連性をもつ作品より、研究対象となる1作品とそのテーマの選定。
2. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
3. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
4. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
5. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
6. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
7. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
8. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
9. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
10. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
11. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
12. 取り上げた英米児童文学小説のアダプテーション作品(映画、演劇、ミュージカルなど)の考察
13. 取り上げた英米児童文学小説のアダプテーション作品(映画、演劇、ミュージカルなど)の考察
14. 研究発表の準備
15. 研究成果の発表

授業の方法

講義後、各自が原書講読をし、グループで取り上げた作品について調べて考察後、まとめて発表する。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法

発表(レポート含む)30%、平常点20%、定期試験50%
課題のフィードバックは授業中に行う。発表は、授業内で口頭、またはメモによりフィードバックする。

欠席について

規定に従う。

テキスト

Lewis Carroll/丸橋良雄・伊藤佳代子 『不思議の国のアリス』英光社
その他は授業中に指示する。
ハンドアウトを使用する。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2				

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネジメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

1. ガイダンスと個人研究の進め方
2. 個人研究テーマの発表
3. 個人研究発表とディスカッション
4. 個人研究発表とディスカッション
5. 個人研究発表とディスカッション
6. 個人研究発表とディスカッション
7. 個人研究発表とディスカッション
8. 個人研究発表とディスカッション
9. 個人研究発表とディスカッション
10. 個人研究発表とディスカッション
11. 個人研究発表とディスカッション
12. 個人研究発表とディスカッション
13. 個人研究発表とディスカッション
14. 個人研究発表とディスカッション
15. まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれて理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2				

授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネジメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

授業計画

1. ガイダンスと卒業研究進行状況報告
2. 個人研究発表とディスカッション
3. 個人研究発表とディスカッション
4. 個人研究発表とディスカッション
5. 個人研究発表とディスカッション
6. 個人研究発表とディスカッション
7. 個人研究発表とディスカッション
8. 個人研究発表とディスカッション
9. 個人研究発表とディスカッション
10. 個人研究発表とディスカッション
11. 個人研究発表とディスカッション
12. 個人研究発表とディスカッション
13. 個人研究発表とディスカッション
14. 個人研究発表とディスカッション
15. まとめ

授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

必要に応じて配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)とI(知性)とを養う。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

- 落語 その老 「寿限無」「芝浜」
- 落語 その式 英語落語の可能性・「鷲取り」
- 落語 その参 創作落語・グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」
- 落語 その四 女性落語家の活躍 落語「花嫁修業」
- 歌舞伎 その老 日本作品を海外へ:和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演
- 歌舞伎 その式 海外作品を日本へ:NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」
- 歌舞伎 その参 現代歌舞伎:シネマ歌舞伎の可能性「阿弓流為」
- 歌舞伎 その四 江戸荒事と上方和事:市川團十郎「勸進帳」と坂田藤十郎「藤十郎の恋」
- 歌舞伎 その五 その他の古典芸能の影響 「鏡獅子」・「棒縛り」
- 狂言 「附子」大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言
- 能 その老 能「鉄輪」と野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り
- 能 その式 能「鉄輪」における、シテ方・ワキ方・狂言方
- 文楽 その老 「曾根崎心中」
- 文楽 その式 三谷幸喜による「其成礼心中」
- 文楽 その参 「瓜子姫とあまんじゃく」

授業の方法

講義が中心となるが、その他に実際に古典芸能を鑑賞する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

留意事項

実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
コミュニケーションと文化			13419	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

授業計画

- イントロダクション
- ことばと文化(1):意味とは何か
- ことばと文化(2):文化とは何か
- ことばと文化(3):言語とは何か
- コミュニケーション(1):ことばとコミュニケーション
- コミュニケーション(2):コミュニケーションの性質と要素
- コミュニケーション(3):言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
- 振り返り
- 異文化コミュニケーション(1):異文化をどう捉えるか
- 異文化コミュニケーション(2):異文化適応のプロセス
- 異文化コミュニケーション(3):文化とコミュニケーション
- 言語運用と意味(1):発話の意味
- 言語運用と意味(2):会話の含意
- 言語運用と意味(3):ポライトネス
- まとめ

授業の方法

講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくること。また事後学習では、授業で配布した資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

使用しない。毎回資料配布を行う。

参考図書

授業内で適宜紹介する

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

授業の到達目標

本講義は英語の成り立ちや英語の仕組みを幅広く理解することを目的とし、英語を科学的にひもといていく。KAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養うと同時に、より理解を深めるためのグループワークを通してK(思いやり)を学ぶ。

授業の概要

英語学の分野で取り扱われている研究領域全体を次の授業計画に従って概観する。英語が人と歩んできた歴史とその今、語や文の構造や仕組み、英語が伝える意味について講義をする。基本的に講義形式をとるが、より深い理解のため、様々な理論を踏まえながらグループワークやディスカッションを通して考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション 授業の進め方や履修条件、言語学研究の概説を行います。
- 2.英語史(1) 英語の成り立ちから現在までの歴史を概観、古期英語
- 3.英語史(2) 中期英語・近代英語
- 4.世界の中の英語 世界で使用される英語、現在の国際共通語として使用されている英語
- 5.音韻論(1) 発音する際の身体の器官、英語の音の構造
- 6.音韻論(2) 英語の音の構造
- 7.形態論(1) 分野の概観
- 8.形態論(2) 語の内部構造、語形成のパターン
- 9.統語論(1) 分野の概観
- 10.統語論(2) 文構造とそのパターン
- 11.意味論(1) 分野の概観
- 12.意味論(2) 語の意味と文の意味の関連
- 13.語用論(1) 分野の概観
- 14.語用論(2) 言葉の意味と話し手の意図
- 15.振り返り

授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

テキスト

稲木昭子、堀田知子、沖田知子『新・えいご・エイゴ・英語学』(松柏社)
その他適宜プリントを配布

参考図書

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』(くろしお出版)

留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけることも観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI(知性)を養う。(箕野)

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティーのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。(宮副)

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)

児童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

授業計画

- 1.巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」
- 2.浜田広介「泣いた赤鬼」
- 3.宮沢賢治「注文の多い料理店」
- 4.坪田譲治「河童のはなし」
- 5.有島武郎「一房の葡萄」
- 6.与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 7.松谷みよ子「貝になった子供の話」
- 8.まとめと試験
- 9.ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』
- 10.ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
- 11.R.L.スティーブenson『宝島』
- 12.L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 13.L.M.オルコット『若草物語』
- 14.ベアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

- 15.アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像作品の鑑賞も行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。(箕野)
『たのしく読める英米児童文学』本多英明/桂宥子/小峰和子編著 ミネルヴァ書房(宮副)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先

mino@kasei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

英語文学を通して英語のさまざまな表現法を学び、また日本文化と比較しながら多文化を理解する。講義においては、「小説」というもっともポピュラーな読み物を楽しむとともに、そこに込められた作家の読者に対する真摯なメッセージを読み解く。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティの I (知性)、I n (国際性) と E (倫理) を考える。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『高慢と偏見』を取り上げて研究する。この小説は、風習喜劇(the Comedy of Manners)に属し、主に社交界の軽薄・因習・愚行などを諷刺した機知に富んだ喜劇であり、ラブ・ロマンスが主筋であるが、その意味するところは深く、作家の鋭い洞察力が根幹を貫いている。授業では文学を通して古くて新しいテーマである人生について、そして、自己に誠実に真摯に生きるとはどのようなことなのか等についても考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDといった視覚教材も用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

- 1.Introduction
- 2.The Language of Jane Austen's time
- 3.18-19世紀のイギリスの時代的・文化的背景
- 4.18-19世紀のイギリス女性の社会的地位と人生
- 5.Pride and Prejudiceを読む Ch.1-3/研究発表
- 6.Pride and Prejudiceを読む Ch.4-6/研究発表
- 7.Pride and Prejudiceを読む Ch.7-10/研究発表
- 8.Discussion
- 9.Pride and Prejudiceを読む Ch.11-14/研究発表
- 10.Pride and Prejudiceを読む Ch.15-18/研究発表
- 11.Pride and Prejudiceを読む Ch.19-20/研究発表
- 12.Fact Files "Socializing in Regency England"
- 13.Presentation/レポート提出
- 14.Discussion
- 15.Conclusion

授業の方法

講義のほかに、文学、あるいはそこに内在する文化の諸要素について

て学生同士でも自由に発言し、問題提起や議論の発展が可能のように、教師・学生の双方向性の授業形態を予定している。

準備学修

講義前に、テキストの各章を各自で予め読み、英語表現のみならず異文化を理解し、また作家のメッセージ等も考えて授業中の自由闊達な議論に備える。(毎回30-60分)

講義後は、興味ある課題に各自で取り組み、課題のレポート作成の準備をする。(毎回30-60分)

課題・評価方法

課題：発表、質疑応答、ディスカッション、レポート作成(随時レポート作成を課し、授業中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。)

評価方法：平常点30%、定期試験70%
授業中の積極的な意見交換を高く評価する。

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen,"Pride and Prejudice"CD付.London:Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

翻訳書："Pride and Prejudice"(『高慢と偏見』あるいは『自負と偏見』)の翻訳書は、岩波、新潮、ちくま各文庫本でも入手可能である。参考図書：授業で随時、指示する。

参考資料：配布。

留意事項

授業で取り上げる『高慢と偏見』は多数の翻訳書があるので、可能なかぎり予め読んでおくこと。

教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を身につける。

授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

授業計画

- 1.身近にある異文化理解 その1
〈人魚〉をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する。
- 2.身近にある異文化理解 その2
〈MANGA〉をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する。
- 3.身近にある異文化理解 その3
〈宝塚歌劇〉をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する。
- 4.身近にある異文化理解 その4
〈映画「ムーラン」〉を題材に、アメリカから見た中国の女性の描き方について考察する。
- 5.プレゼンテーション(1)「身近にある異文化理解」
- 6.プレゼンテーション(2)「身近にある異文化理解」
- 7.プレゼンテーション(3)「身近にある異文化理解」
- 8.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その1
ブラジル移民。政府の政策と神戸港の対応。
- 9.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その2
ベラルーシ。原子力発電所事故影響からの立ち直り。日本との繋がり。
- 10.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その3
パラオ。南洋諸島と戦前の日本委任統治
- 11.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その4

- 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がみた日本・神戸
12.プレゼンテーション(4)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
13.プレゼンテーション(5)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
14.プレゼンテーション(6)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」
15.まとめと質疑応答

授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
WEBトラベルプレゼンテーション			13839	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

授業の到達目標

国内外のトラベルやサービス業関連のWEBページの分析を通して、WEBプレゼンテーションの役割とポイントを学習し、基本条件や専門知識を習得する。また実習では理想的なWEBプレゼンテーションと役に立つプレゼンテーションのテクニックを養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

WEBプレゼンテーションに必要な基本条件と専門知識を学び、実習でテーマに基づいた企画書、日程表、パンフレットなどの作成作業や発表等のプレゼンテーションを通して、効果的な作成方法や発表のテクニックを学ぶ。

授業計画

1. WEBトラベル・プレゼンテーション概要(テーマの説明と内容の紹介)
2. トラベルやサービス業関連のWEBページの分析
3. WEBプレゼンテーションの基本条件(テーマ・イメージ・キーワード)
4. WEBプレゼンテーションの基本条件(ページレイアウトとデザイン制作フロー)
5. プレゼン資料の作成方法と発表のポイント
6. WEBプレゼンテーション実習(1)
7. WEBプレゼンテーション実習(2)
8. WEBプレゼンテーション実習(3)
9. WEBプレゼンテーション実習(4)
10. WEBプレゼンテーション実習(5)
11. WEBプレゼンテーション実習(6)
12. WEBプレゼンテーション実習(7)
13. WEBプレゼンテーション実習(8)
14. WEBプレゼンテーション実習(9)
15. 総括&試験

授業の方法

講義と小テスト、プレゼンテーションの資料作成と発表等の実習を中心とする。

準備学修

事前に指示された個所を予習、復習してくること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

テキスト

なし

留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

教員連絡先

sam@alohawalker.net

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

1. 神戸海岸通りと旧居留地
陳舜臣「枯草の根」を読み、神戸居留地の歴史を振り返る。
2. 神戸の海岸線
村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
3. 雑居地文化と異人館通り
宮本輝「花の降る午後」を読む。雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。神戸のスイーツやパン、洋食文化にも触れる。
4. 神戸モダニズム
稲垣足徳「星を造る人」を読み、トーアロード周辺から発信された、神戸モダニズムについて考察する。
5. 他地域からの視点
堀辰雄「旅の絵」を読み、東京からのお客様である堀辰雄を案内した竹中郁のエッセイにも触れる。外から見た神戸文化について考察する
6. ミステリー発祥の地としての神戸
横溝正史「虹のある風景」を読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
7. 川崎造船所と神戸の町
久坂葉子「ドミノのお告げ」を読む。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れ、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。
8. 鈴木商店を支えた女性
玉岡かおる「お家さん」を読む。かつて世界を掴んだ神戸の個人商店鈴木商店。その歩みと、鈴木商店を支えた神戸の女性の生き方を考察する。
9. プレゼンテーション発表

10. プレゼンテーション発表
11. プレゼンテーション発表
12. プレゼンテーション発表

13. 映画に登場する神戸の風景

有川浩「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。

14. 神戸モダニズムの転換期

昭和40年代の神戸と阪神間文化について考察する。かつてモダンと呼ばれた文化がレトロと呼ばれるようになった時、神戸では何が起こったのか。文学作品を参考資料として考察していく。

15. 神戸と坂の物語

神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある。それらを、考察していくことでまとめとする。

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽2	①/②/③/④	17421	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
由井 敦子／南 夏世	選択	2			

授業の到達目標
 幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を高めることがねらいである。子どもの発達や現代の環境をふまえ、幅広い表現活動が展開できる保育者・指導者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。
 このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

授業の概要
 「楽典」については、コード学習に加え、調性やカデンツの学習と演習を重ねる。「歌唱・弾き歌い」については、弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。さらに、「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を、表情豊かに演奏できるようにピアノ技能を高めていく。その際、各自の目標として定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

- 1.コード復習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 2.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 3.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 4.調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 5.調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 6.調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 7.調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 8.コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 9.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 10.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 11.弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 12.こどもの発達と歌唱教材。連弾。
- 13.こどもの発達と歌唱教材。連弾。
- 14.様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
- 15.様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。

授業の方法
 前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

準備学修
 Webを参照すること

課題・評価方法

- ①毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
- ②平常点70% 定期試験30%
 定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる連弾・コード等の小テストは平常点に反映する。
- ③個人の進度に応じて与えられた課題を終えなければ定期試験を受けることはできない。

欠席について
 欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト
 「マイレパートリー」(YAMAHA MUSIC MEDIA)
 ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書
 授業内で随時提示する。

留意事項
 必要に応じてクラス再編成を行う。
 配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。
 授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

教員連絡先
 minami@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。
 日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC	17437	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
箕野 聡子／宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)		

授業の到達目標
 初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。(箕野)
 すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。(宮副)

授業の概要
 日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)
 児童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

授業計画

- 1.巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」
- 2.浜田広介「泣いた赤鬼」
- 3.宮沢賢治「注文の多い料理店」
- 4.坪田譲治「河童のはなし」
- 5.有島武郎「一房の葡萄」
- 6.与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 7.松谷みよ子「貝になった子供の話」
- 8.まとめと試験
- 9.ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』
- 10.ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
- 11.R.L.スティーブenson『宝島』
- 12.L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 13.L.M.オルコット『若草物語』
- 14.ベアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15.アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法
 講義中心の授業である。必要に応じて映像作品の鑑賞も行う。

準備学修
 Web参照すること。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

欠席について
 規定に従う。

テキスト
 随時、プリントを配布する。(箕野)
 『たのしく読める英米児童文学』本多英明/桂宥子/小峰和子編著 ミネルヴァ書房(宮副)

参考図書
 必要に応じて、授業中に随時紹介する。

教員連絡先
 mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。